

M U S I C A L
ATERUI

【原作】高橋 克彦

「^{かえん}火怨 北の耀星アテルイ」
吉川英治文学賞受賞作品 講談社刊より

【脚本】杉山 義法

【演出】中村 喙夫

【作曲】甲斐 正人

【美術】朝倉 摂

阿弓流為

北の耀星

アテルイ

この大地のため、迷いはない。
ミュージカル

宝くじ文化公演

2011年10月15日 土 [開場] 13:00 [開演] 13:30

会場

長与町民文化ホール

〒851-2126 長崎県西彼杵郡長与町吉無田郷73番地1



Design by Yoshitake Sugimoto

チケット料金

全席自由 一般:2,000円(当日 2,500円) 高校生以下:1,000円(当日 1,500円)

※この公演の入場料は、宝くじの助成により特別料金になっています。
※未就学児の入場はご遠慮下さい。

発売開始日 2011年8月1日(月)

主催/長与町、長与町教育委員会、長崎県、(財)自治総合センター

後援/KTNテレビ長崎、NBC長崎放送、NIB長崎国際テレビ、NCC長崎文化放送、長崎新聞社

※駐車場の収容台数に限りがありますので、できるだけ乗り合わせていただくが公共交通機関をご利用下さい。

※ご来場のお客様は、中尾城公園モノレールを無料でご利用できます。係員にその旨お伝え下さい。

入場券販売所

- 長与町教育委員会生涯学習課
- 長与町民文化ホール
- 長与町公民館
- 高田地区公民館
- 上長与地区公民館
- 北部地区多目的研修集会施設

- 勤労青少年ホーム
- 働く婦人の家
- 長与南交流センター
- ふれあいセンター
- 浜屋プレイガイド



この大地のため、迷いはない。

ミュージカル

アテルイ

阿弓流為

北の燿星

あらすじ

黄金を求める大和朝廷は蝦夷(えみし)を「まつろわぬ民」として征圧を企てる。度重なる侵攻に、蝦夷は人間の誇りをかけて立ち上がる。その若きリーダーがアテルイだった。

大和軍との激しいたたかいが続く。アテルイは今は征夷大將軍となった幼なじみの田村麻呂と岩手山の麓で一騎打ちの場面を迎える。ふとよみがえる遠い記憶。愛瀬詩。エミシとは母の愛のような広々とした大河の詩を意味すると語り合った日。

蝦夷の慟哭のような岩手山大噴火。敗走する仲間たち。その姿に、アテルイはついに決断する。

阿弓流為(アテルイ)とは

8世紀から9世紀にかけて、現在の岩手県胆沢地方に実在した人物。胆沢は蝦夷の中でも「水陸万頃之地」と呼ばれ、広大な平地に満々と水をたたえた北上川が流れ、水田と耕地が広がっている。そんな肥沃な土地であるがゆえ大和朝廷は再三にわたり戦いをしかけていた。胆沢の豊かな暮らしと文化を守るためアテルイは首長として多くの村落をまとめ朝廷軍と戦う。

坂上田村麻呂とは

758年誕生。平安朝初期、「征夷大將軍」に任ぜられ、蝦夷(えみし)の英雄アテルイと戦った知勇の武将。先祖は朝鮮半島から渡来した東漢氏(やまとのあやうじ)。田村麻呂が発願して建立された清水寺(京都)では、処刑されたアテルイをはじめ、朝廷軍・蝦夷軍の分け隔てなく、戦いで亡くなった人々の供養がされている。811年死去。



清水寺(京都)境内南苑に立つアテルイ・モレの碑

愛こそ世界を……

原作/高橋 克彦

なぜ人は限りない欲望を抱くのだろう。なぜおなじ人間の命を奪えるのだろう。なぜ相手の心をつかろうとはしないのだろう。これは千二百年以上も前からそうだったし、今も変わらない。私にそういうやり切れない世界を変える力などないが、アテルイを描いたことで少なくとも人としての役割を果たせたような気がしている。自分に成し遂げられなくても警鐘は鳴らした。そしてそれを受け継いでくれたのがわらび座だ。これは決して東北の過去の苦難の物語ではない。小説と違ってわらび座の若者たちが演じてくれたことにより、アテルイやその仲間たちが今に甦り、現代と対面している。アテルイたちの怒りや悲しみは今の世界に対するものでもあるのだ。それを私は逆に舞台を観て気付かされた。いつまでも変わらぬものはただ一つ「愛」だけにして欲しい。

キャスト

アテルイ



戎本 みろ

坂上田村麻呂



宮本 昌明

佳奈



遠藤 浩子

タキナ



上野 まゆ

スタッフ

原脚 作○高橋 克彦
演出 本○杉山 義法
演出 出○中村 孝夫
作曲 曲○甲斐 正人
美術 術○朝倉 摂

作詞 詞○高橋 亜子
振付 付○鎌田真由美
菊池 正平
殺陣指導 菊池 竜志
(菊池剣友会)

衣装 裳○樋口 藍
照明 明○志村 拓
音響 響○押久保 豊
小道具 具○平野 忍

音楽指導 岡崎 亮子
演出助手 黒木 友宜
舞台監督 仁 しばか

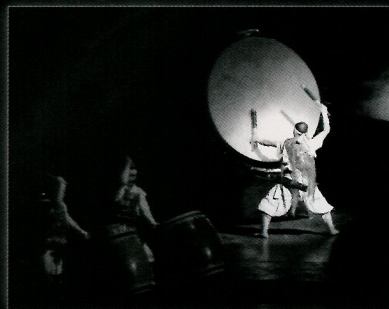
制作 作○劇団わらび座

演出:中村 孝夫

1931年 東京生まれ。
1951年 慶応義塾大学文学部卒業。(折口信夫先生の最後の生徒)
1954年 東宝撮影所助監督となる。黒沢明監督に師事。
1962年 東宝演劇部へ移籍。菊田一夫氏に師事。
1965年 演出家としてデビュー。
以来、数多くの大劇場演出を続ける。特にミュージカル系統の作品が多い。

【主な作品】

「王様と私」(日生劇場ほか)、「ラ・マンチャの男」(帝劇ほか)、「その男ソルバ」(コマ劇場)、「ファンタスティックス」(ジャンジャンほか)、「銀河鉄道の夜」(わらび座)、「カンアミ伝」(わらび座)



「月刊ミュージカル 2005年2月号より」
日本人のオリジナル・ミュージカルを希望する者として……
「アテルイ」はかねてからの願望をかなえてくれた一作だ。
(岩波剛 演劇評論家)
「アテルイ」は小説や舞台で馴染みぶかいテーマで、日本歴史に関するものが上位に並んだことはオリジナル作品の方向性を示唆するものでしょう。
(小田切一雄 演劇評論家)



■アテルイ公演記録

2001年8月~2002年8月…わらび劇場(秋田県)にて、ロングラン公演
2002年9月~2004年3月…全国公演
2003年4月……………清水寺(京都府)にて、法要祈願公演
2004年2月……………東京芸術劇場ミュージカル月間選定公演
同公演にて、タキナ役丸山有子が「小田島雄志賞」受賞
月刊ミュージカル「年間ベストテン2004」でベスト10位

【公演営業部お問い合わせ先】

〒014-1192 秋田県仙北市田沢湖卒田字早稲田430
TEL.0187-44-3316 FAX.0187-44-3318

●インターネットでのご案内●

<http://www.warabi.jp/>

